

## 2017年度アダプテッド・スポーツ関連の学会参加報告

曾根裕二

2017年度、著者が所属する学会において実践や研究を発表する機会があったため、参加学会の様子も含めて報告する。

### 【日本体育学会】

2017年9月8日から10日にかけて、静岡大学において第68回日本体育学会が開催された。大会テーマは「体育・スポーツは今、次世代に何ができるか？—2020後を見据えて—」というものであり、初日は静岡県コンベンションアーツセンターを会場に、鈴木大地スポーツ庁長官の特別講演をはじめとする、講演やシンポジウムが数多く企画された。2日目以降は静岡大学に会場を移し、専門領域ごとの研究発表や企画シンポジウムが行われた。著者の所属するアダプテッド・スポーツ科学専門領域では、32演題の一般研究発表とシンポジウム「大学におけるアダプテッド・スポーツ教育 その1」が行われ、著者もシンポジストの一人として登壇したので、その概要について報告する。

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会への盛り上がりと共に、体育系や福祉系大学でのアダプテッド・スポーツ関連授業が開講されるようになったが、その内容は各

大学、担当教員ごとに異なっているのが現状である。そこで、今回のシンポジウムでは先駆的にアダプテッド・スポーツ関連の取り組みを行っている大阪体育大学（以下、本学）、日本福祉大学、順天堂大学から報告を行い、現状把握と情報共有することがシンポジウムの趣旨であった。本学からは「大阪体育大学教育学部におけるアダプテッド・スポーツの学びの系統性」というタイトルの報告であり、アダプテッド・スポーツ関連科目は理論、実技、実習という構成になっており、理論で学んだ内容について実技を通して実感し、実習の中で指導に活かすというように学びの系統性を重視していることを紹介した。日本福祉



図1：アダプテッド・スポーツ科学専門領域シンポジウムの様子

大学からの報告では、2017年度に開設したスポーツ科学部では、本学と同様に理論から実技、演習という流れで学びを深めていく構成になっていることが紹介された。また、関連科目を必修科とすることで学生全員が初級障がい者スポーツ指導員資格を取得できるようなカリキュラムとなっていることが報告された。順天堂大学では特定の教員がアダプテッド・スポーツ関連科目を担当するのではなく、教職に関わる教員全員が問題意識を持ち、それぞれの講義や実技の中でアダプテッド・スポーツや特別支援に関する内容を盛り込んでいることが報告された。例えばサッカー実技の中でブラインドサッカーについての実技内

容が含まれていたり、コーチングの授業の中でパラリンピック選手のことが取り上げられたりするそうである。各大学からの報告の後、フロアからも活発な質問や意見交換がなされ、この分野の注目の高さがうかがえた。

### 【障がい者スポーツ関係学会合同コンgres】

2017年12月16日(土)、17日(日)に早稲田大学大隈講堂において「障がい者スポーツ関係学会合同コンgres」が行われた。この大会は昨年度北海道で行われた同様の合同コンgresに引き続き行われた、日本国内の障がい者スポーツ関係の学会、研究会が一堂に

表1：合同コンgresプログラム

12月16日(土)		
12:00～	開会式 主催者挨拶 来賓挨拶	日本障がい者スポーツ協会 会長 鳥原光憲 スポーツ庁 長官 鈴木大地
13:00～	記念講演「第19回秩父宮記念スポーツ医・科学賞」の功 労賞受賞にあたり	日本障がい者スポーツ協会 医学委員長 陶山哲夫
13:30～	基調講演「共生社会実現への道～障がい者スポーツの 充実と東京2020パラリンピックに向けて～」	日本障がい者スポーツ協会 常務理事 高橋秀文
14:45～	シンポジウム「東京2020レガシー“スポーツを通じた共 生社会の創造～」	座長 早稲田大学スポーツ科学学術院 友添秀則
12月17日(日)		
9:00～	挨拶	実行委員長 山田 登志夫
9:10～	各学会からの企画 ①障がい者スポーツを支える医科学を考える ②温故知新～1964東京パラリンピックから東京2020を 考える ③大学におけるアダプテッド・スポーツ教育 ④リハビリテーションスポーツの実際 ⑤障がい者スポーツの実践力向上	①日本障がい者スポーツ学会 / 日本リハビ リテーション医学会 ②日本アダプテッド体育・スポーツ学会 ③日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学 専門領域 ④日本リハビリテーションスポーツ学会 ⑤日本障がい者体育・スポーツ研究会
16:00～	閉会式	
11:50～12:50 ポスター発表		

会する記念すべき大会であり、「東京2020レガシー スポーツを通じた共生社会の創造」というテーマで開催された。コンgresプログラムを表1に示す。

著者の所属する『日本アダプテッド体育・スポーツ学会（以下、JASAPE）』も実行委員会構成団体の一つとして企画段階から携わった。また、今回の合同コンgresでは第22回のJASAPE学会大会も兼ねて行ったため、2日目の昼にはポスター発表の時間を設け、JASAPEからは30演題（全体で45演題）の発表があった。本稿ではJASAPE企画のシンポジウム等について報告する。

2日目の学会企画は司会を本学教育学部の植木章三教授が務め、「温故知新」というテーマで、1964年の東京パラリンピックにも携わった中川一彦先生（筑波大学名誉教授）を招いての講演であった。当時の貴重な映像を見ながら、1964年大会が残したものの大きさを確認する良い機会となった。

一般研究ポスター発表では、「障がい者優先スポーツ施設利用者におけるスポーツ外傷・障害発生の関連要因」という演題を本学教育学部の竹内亮准教授が発表され、「体育系大学が主催する障がい児を対象としたスポーツクラブの試み」というテーマで著者が発表した。お昼休みの時間を利用してのポスター発表であったが、来場者も多く活気あふれる時間となった。著者の発表に関連したところでは、地域で障がい児も含めた形でスポーツクラブを展開しているNPO法人のスタッフとのディスカッションや、同様の活動を展開することを検討中という行政職の方からの質問など、非常に有意義な議論が展開された時間であった。

また、本学健康福祉学部の卒業生（現、日本体育大学大学院在学中）の発表もあり、本学関係者が数多く参加した学会でもあった。コンgresでの発表の様子を図2に示し、本稿を終えたい。

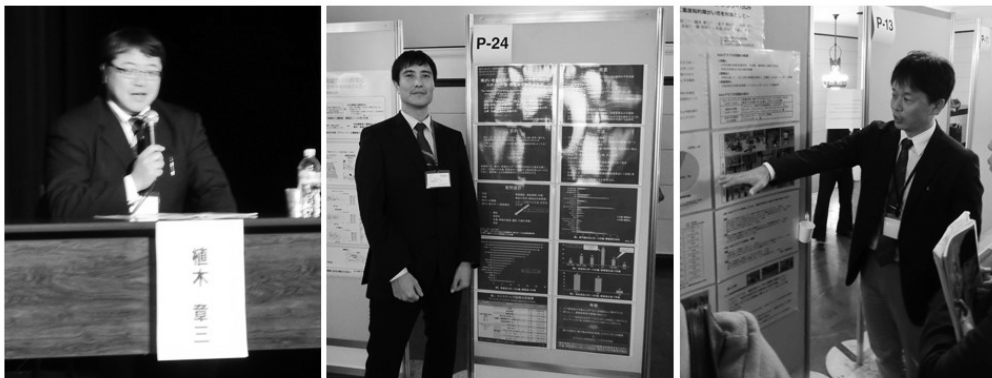


図2：合同コンgresの様子  
（左：司会をする植木教授／中：ポスター発表をする竹内准教授／右：ポスター発表をする著者）